

シュラインロードの石仏ガイド

シュラインロードの石仏ガイド

シュラインロードの石仏は、六甲山上で200年近く続く歴史的文化遺産です。わたしたちの身近にあるこの貴重な石造物のことがあまり知られていないのは残念なことです。たった一本の道から六甲山のたくさんの歴史が立ち昇ってくる…シュラインロードというのはそんな不思議な道なのです。

なお、シュラインロードの石仏ガイドでは、1～33番の石仏(他に番外4体)のうち、終盤近い数体のみに標柱を設置し、28番～33番の石仏について紹介しています。

第28番 石仏(聖観世音菩薩)

成相山(なりあいさん) 成相寺(なりあいじ) (京都府宮津市)

本堂は標高569mの成相山中腹に位置し、日本三景の一つ天橋立が一望できる。

餓死寸前の修行僧が本尊に祈ったところ傷ついた鹿が現れ、それを食べて命が助かった。後に鹿の傷と本尊の傷が一致し、観音様がその身を与えてくださったと悟った。すなわち、祈れば願いが必ず成り合(相)う寺とされる。



第28番石仏



天橋立



成相寺本堂



観世音菩薩

第29番 石仏(馬頭観世音菩薩)

青葉山(あおばさん) 松尾寺(まつのおでら) (京都府舞鶴市)

京都府と福井県の境に位置する青葉山は、その優美さから若狭富士とも呼ばれる。

本尊の馬頭観音は三十三霊場中唯一のもので、苦悩災難を粉碎してくれると信じられる。家畜、車馬交通の守り神とされ、近年は競馬関係者の信仰も篤い。観音菩薩としては異例の忿怒の相で、4対の腕を持つ三目三面八臂の姿。



第29番石仏



若狭富士



松尾寺本堂



馬頭観音